

令和7年度 学校評価実施報告書

学校名: 枚方市立杉中学校
校長名: 畑 克延

1. 学校教育目標

「自立・自律的に物事を考え行動し、他者と共生し、何事にもチャレンジできる生徒の育成」＝「じりつ・共生・チャレンジ」

2. めざす子ども像

(1) 自ら学び、考え、行動できる生徒 <自立・自律> (2) 仲間とともに学び、考え、行動できる生徒 <共生> (3) 勇気をもってチャレンジできる生徒 <チャレンジ>

基本方針	重点項目	具体的な取組内容					
		本年度の重点的な取組(4月)	取組指標(誰が、何を、どのくらいの頻度で)	評価指標(目標)※具体的な数字を入れる	指標の結果	分析(成果と課題)	改善策
確かな学力と自立の力を育む教育の充実	学校運営組織の確立	学校評価の適切な実施による組織運営の確立を図る。	校長が教職員にアンケートを行い、進捗状況を確認・全体報告する。(6月、11月)	学校教育自己診断肯定値を87%以上(R6:87%)	× (85%)	定性評価を活用したPDCAサイクルによる学校運営を継続できた。自学自習力の育成について、アンケート結果からも、改善傾向がうかがえ、取組の継続性が見いだせる。教職員による意図的な働きかけの自認度が低い。	年度当初に、各教科・領域の年間計画に、外部人材の活用を盛り込む。 引き続き、家庭と授業をつなぐ課題の追究を研究主題とする。
	授業改善	「協同学習」の全校的な推進を図る。	学識者による講演(4月・5月) 授業研究会(5月、1月) OJTグループによる相互授業研究	教職員アンケート「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」よくあてはまる65%(R6:63%)	× (39%)		
	確かな学力の育成	情報の読み取り、自分の考えに構築、表現する活動を各教科で充実させ、「思考力・判断力・表現力」を育成する。	学力向上委員会、毎学期末の各教科観点別評価の割合で進捗を確認。	大阪府チャレンジテスト 前年度対府比の向上	× (5教科中、すべてで対府平均以下)		
	家庭学習の充実	家庭学習の充実を図る課題の設定や保護者への啓発により、家庭学習の定着を図る。	授業改善委員会で家庭学習の充実に向けた取組を検討・実施する。特に、長期休業中の家庭学習について、保護者と連携した取組をおこなう。	家庭学習を促すツールの作成。 生徒アンケート「家で自分で計画を立てて学習している。」60%(R6:56%)	△ (58%)		
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実(体力向上プラン・道徳教育全体計画等と連動)	非認知能力の育成	杉中プライドアクションガイドを活用し、非認知能力の育成を図り、自己肯定感の醸成を図る。	体育祭・10月、文化祭・10月などの学校行事や日常的にも行動指標を提示したり振り返らせたりして非認知能力を意識化させる。	生徒アンケート「自分にはよいところがある」80%以上(R6:80%)	○ (81%)	自己肯定感の醸成に大きく成果。 教職員の危機管理意識の向上に努め、結果、学校事故防止につながった。 いじめについて、啓発活動や防止プログラムを実施することができた。 ルールメイキングの取組を継続する。	すべての教育活動を、「じりつ・共生・チャレンジ」で貫き、新たな行動指標に沿った評価・フィードバックを行う。 家庭・地域と共有できるテーマでの講演会を実施。
	学校事故の防止	食物アレルギー、熱中症事故の防止に努め、万一の場合の対応について、適切な体制を整える。	養護教諭、管理職が講師となる教職員研修(予防、および緊急対応)の実施:4月、5月、8月	食物アレルギー事故、熱中症による緊急搬送 いずれも0。	△ (アレルギー事故について、直接的な原因ではないが、1件発生した。)		
	ともに学びともに育つ	障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが、日常にかかわりの中で、お互いの違いを認め合う態度を育む。	上半期のうちに、講師を招聘しての研修会を開催。ユニバーサルデザインによる授業づくりや違いを認め合える集団作りに取り組む。	教職員アンケート「「ともに学び、ともに育つ」の特別支援の視点を意識して学級(授業)づくりをしている。」100%(R6:96%)	× (94%)		
	自治力の育成	生徒の自主的・実践的な態度の育成と生徒の自発的活動を推進する。	現在進行中の制服プロジェクトの延長線上に、年度内に、校則についてルール・メイキングの手法で、生徒主体の取組を始める。PTAとの交流会の実施。	生徒アンケート「生徒会活動に関心を持ち積極的に参加している。」67%(R6:64%)	○ (70%)		
	食育の推進	食に対する知識や理解を深める取組を充実させる。	給食で献立される行事食や旬の食材について、学校ブログで取り上げる。保健だよりで、食育に関する記事を特集する。	生徒アンケート「授業や給食で、食の重要性を学んでいる。」80%(R6:77%)	○ (84%)		
教職員の資質と指導力の向上(業務改善を含む)	サービスの徹底	コンプライアンス(法令遵守)意識強化するとともに、服務規律の保持・徹底を図る。	校長、教頭による服務研修の実施。(毎月の職員会議で、ミニ研修の実施:目標10回以上、夏季休業中に1回)	教職員による、服務違反・不祥事0。	○	法令順守について、毎職員会議で研修を行った。そのことを評価する教職員の意見あり。しかし、個人情報紛失事案が生じたことは残念。働き方改革・業務改善の推進には、依然課題が見られる。 業務改善委員会を、定例化させ、進捗確認や軌道修正を恒常的におこなう。	
	業務改善・働き方改革	校内の業務の在り方の適正化に努め、総労働時間の短縮に努める。	運営・衛生委員会で、業務の適正化にかかる取組を検討し、実施する。また、月間総時間外勤務80時間以上の職員には、都度、面談を行うなど、短縮を働きかける。	具体的な取組の実施と検証。ストレスチェック「仕事や生活の満足度」の向上 6.5ポイント(R6:6.1)	× (6.0)		
	初任期指導体制の整備	OJTグループを構成し、日常的に相互授業参観や学校運営の改善について協議する。	教科部会での交流(毎週)、授業改善委員会(毎週)での進捗状況の確認	教職員アンケート「教職員間で業務の在り方、見直しについて話し合う機会を設け、業務の在り方の適正化を図っている。」75%(R6:68%)	× (63%)		
学びのセーフティネットの構築	校内生徒指導体制の確立	全教職員が学校経営方針に基づいた一致した方向で動き、問題対応事業の重篤化を未然防止する。	常時、「報告・連絡・相談」+「確認」+「記録」を徹底する。	情報・行動連携が不十分による対応が難しい事案の生起0	○	報連相は定着してきた。確認の徹底を図る。進路未定者問題は、不登校問題に大きく起因。	校内適応ルーム(ほっとルーム)の充実。進路保障については、生徒のみならず、保護者支援も必要。
	不登校生徒への支援	生徒が主体的に進路選択し、社会的に自立することができるよう支援する。	学校と家庭とのつながりを常時、実感できる家庭訪問、電話連絡。適宜、ルポやフリースクール等への誘導。	3年生卒業時、進路未定者0	○		
(学校独自の取組) 家庭・学校・地域の連携	社会に開かれた教育課程	学校ブログや学校だよりの内容を充実させ、タイムリーな情報発信に努める。	ブログ・学校だよりの発信に加え、保護者来校の折には、+αの情報発信を行う。	学校は、教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている。強い肯定30%(R6:19%)	△ (23%)	ブログの記事掲載には、一定の評価有。開催した会議は非常に充実したものであった。委員からは、このような対話の機会が多くあればよいとの提案も得た。	学校評議員会やPTA役員会で対話の機会を設ける。ブログの更新は継続。
	地域とともにある学校づくり	学校評議員会やPTA役員会で、学校に関する議論を活性化させ、「地域とともにある学校づくり」を推進する。	PTA役員会の参画(年3回) 学校評議員会 年2回実施。	保護者からの意見聴取・評価 学校評議員会からの学校への評価	△ (学校評議員会の開催は1回のみ)		

学校関係者評価(学校運営協議会または学校評議員と保護者からなる学校関係者評価委員会による)年度末

評価結果	改善に向けた方策
<ul style="list-style-type: none"> 学校ブログが日々更新されており、ほぼリアルタイムでの情報が得られて安心できる。 様々な取組が生徒主体でおこなわれようとしていることは評価に値する。 学校の情報発信について、HPへのアクセスの不自由さがネックとなっているのではないか。ブログで更新されている内容が伝わらないのは、もったいない。主な連絡手段としている「まなびポケット」とうまく連動できないか。紙媒体も、手段となりえる。 アンケートの回答率が低いことについて、「懇談時に渡す」「年間スケジュールで示す」などの工夫ができるのではないか。 物価高や人手不足などの社会的影響により、学校運営は難しいと察するが、さらに活性化することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校方針や各種取組の発信方法について、ホームページへのアクセスの不自由さを改善するため、電子配信(まなびポケット)の際、URLを付記したり、時にはあえて紙媒体で発信するなどして、保護者に届く発信に努める。 学校運営について、おおむね良好との評価を得たので、方針をブレさせず、より教職員のベクトルをそろえることに注力していく。